

2024年4月24日

採用担当の本音調査 / 社員の就業・転職意向実態調査

採用担当者の93.1%が異業種からの採用実績があると回答

異業種転職を検討する際のポイントは？

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村 吉弘、以下リクルート）が運営する『リクルートエージェント』は、企業で働く人事担当者（中途採用業務に関与する者）を対象に、中途採用・キャリア採用をテーマとした採用担当の本音調査（①）を実施しました。また、企業で働く社員を対象に、転職をテーマとした社員の就業・転職意向実態調査（②）を実施しました。本リリースでは、企業の中途採用・キャリア採用の状況や、社員の異業種転職の実態などを解説します。調査期間は、①2024年1月31日（水）～2024年2月5日（月）／②2024年1月30日（火）～2024年2月2日（金）です。

Summary

キャリア採用は「異業種転職」が主流に。「異業種×異職種」の転職パターンは過去最高値

採用担当の本音調査の結果

- ・採用担当者の93.1%が異業種からの採用実績があると回答
- ・選考時に重視することは、同業種の応募者と異業種の応募者でおおむね同じ傾向。ただし、「前職での成果・実績」、「向上心」、「学習意欲」、「志望理由」に若干の差異がある
- ・採用担当者が異業種の応募者を選考する際に重視することは「20代・30代」と「40代・50代」で違いがある

社員の就業・転職意向実態調査の結果

- ・1年以内転職経験者の58.7%が転職後会社への満足度が上がったと回答。異業種転職者の場合は60.4%
- ・異業種への転職活動時に困ったことで特徴的なものは、「自分のアピールポイントがわからなかった」、「職場環境や文化が自分に適しているかわからなかった」、「経験やスキル・資格が不足していた」など
- ・異業種転職後に困ったことは、「特に困ったことはなかった」が最多。「業務に慣れるまでに時間がかかった」、「必要な知識の習得が大変だった」が続く

解説 ～異業種への転職は増加し、満足度も上昇。異業種転職を検討する際のポイントは？～

今回のインターネット調査から、「異業種への転職」は珍しいものではなく、多くの方がチャレンジできる機会になってきていることがわかりました。異業種へ転職した方は特に、転職活動時には「自分のアピールポイントがわからなかった」、「職場環境や文化が自分に適しているかわからなかった」、「経験やスキル・資格が不足していた」といった困り事を抱えていたことがわかりました。ご自身のどのようなスキルや経験を強みとして企業へ伝えていけばよいかわからない、異業種の職場環境や組織文化にフィットできるかわからない。『リクルートエージェント』にも、そういった不安をご相談くださる方が非常に多くいらっしゃいます。キャリアアドバイザーがお一人おひとりの不安に寄り添い、どんな仕事が適職なのか？どんな仕事の可能性があるのか？面接の場に応じてどのように自己アピールや志望理由を企業に伝えるべきなのかなど、日々さまざまなご相談に乗っています。中には、旅行代理店営業職からRPAエンジニア、店舗販売職からシステムエンジニア、美容師からインターネット業界の営業職への転職事例も出てきています。こういった転職のご支援の際には、今の仕事における成功体験を通じて強みを獲得する事も非常に重要です。また、異業種への転職を目指す場合には、受けたい会社のことだけではなくアンテナをより高く持ち、ご自身の強みをどう生かしていけるのかを企業にうまく伝えていくことが重要になってくるでしょう。



カスタマーサービス統括部
熊本 優子（くまもと ゆうこ）

異業種へ転職した人は、直感的には新しい業種への適応を懸念されていますが、転職後には多くの人の満足

度が上がっているということもわかりました。一方で、転職後に満足度が上がっていない人では、「期待と現実にギャップがあった」、「同僚のフォローが不十分だった」、「自分の適性に合っていなかった」、「働き方が合わなかった」といった困り事が目立ちました。期待と現実のギャップや、自分の適性や働き方のミスマッチは、転職活動時の情報収集や弊社が提供しているような転職支援サービスなどを活用することで解消することが可能です。異業種転職となると、どうしてもその会社のビジネスモデルや仕事やスキルの内容に目がいきがちですが、そもそも自分が転職やキャリアチェンジに何を求めるのか、土台となる働き方はどうあると望ましいのかを検討することが大切でしょう。

解説者：

HR エージェント Division カスタマーサービス統括部 統括部長

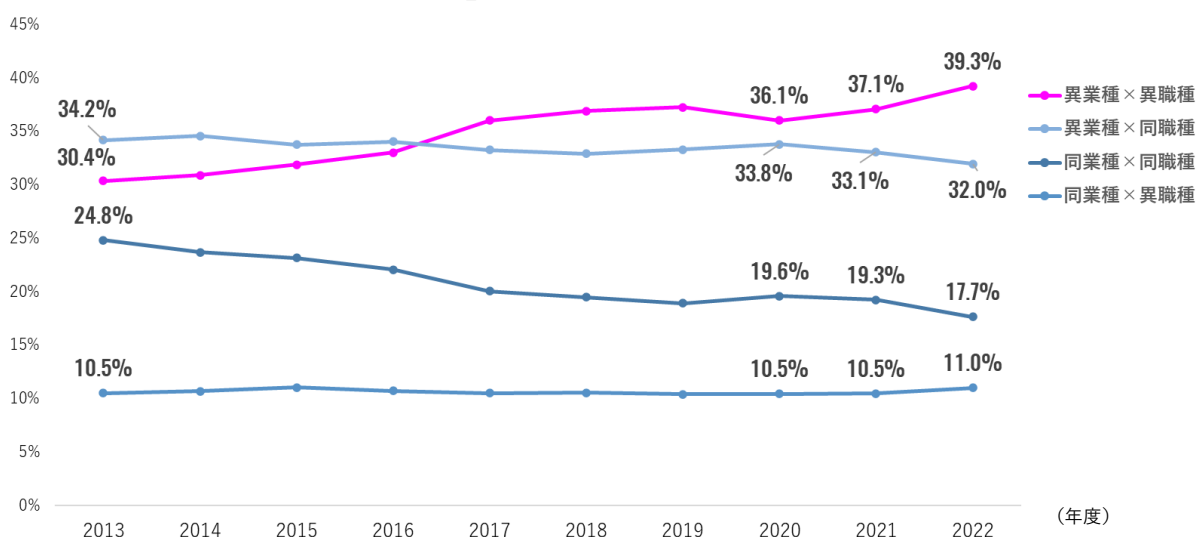
熊本 優子（くまもと ゆうこ）

大学卒業後、半導体メーカーで法人営業職。その後リクルートへ転職し人材紹介事業の法人営業やキャリアアドバイザー、組織マネジメントに従事。2024 年現在、『リクルートエージェント』のキャリアアドバイザー組織を統括。

中途採用・キャリア採用は「異業種転職」が主流に。「異業種×異職種」の転職パターンは過去最高値

転職支援サービス『リクルートエージェント』の転職者の業種・職種の異同パターンを見ると、2017 年度以降は「異業種×異職種」の転職パターンが最多となり、2022 年度は全体の 39.3%でした。次に多い転職パターンは「異業種×同職種」であり、これらを合計すると全体の 70%以上が「異業種」に転職していることがわかります。このような転職市場の動向を背景に、企業の採用担当者と直近 1 年以内の転職者を対象に「異業種転職」をテーマとした調査を実施しました。

『リクルートエージェント』転職時の業種・職種異同のパターン別割合推移



出所：リクルート 「『異業種×異職種』転職が全体のおよそ 4 割、過去最多に 業種や職種を越えた『越境転職』が加速」
https://www.recruit.co.jp/newsroom/pressrelease/2023/1129_12773.html

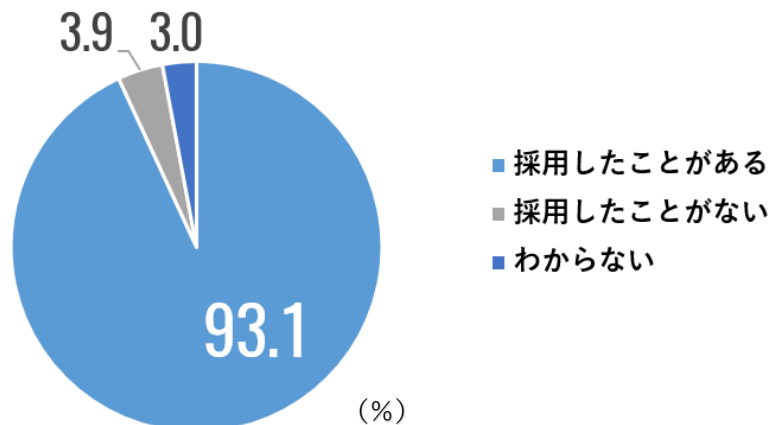
採用担当者の93.1%が異業種からの採用実績があると回答

企業の採用担当者に、異業種から応募してきた人の採用実績を確認したところ、93.1%の人が「採用したことがある」と回答しました。前述の「異業種転職」の転職パターンの割合の高まりからも、多くの業界で異業種からの応募者を受け入れていることがわかります。人手不足の対応として業界未経験の人の採用を増やしたり、事業変革に向けて異業種や異職種の経験を持つ人を外部から採用している等の背景が考えられます。

Q. これまでに異業種から応募してきた方を

採用したことはありますか

採用担当者（単一回答、n=305）



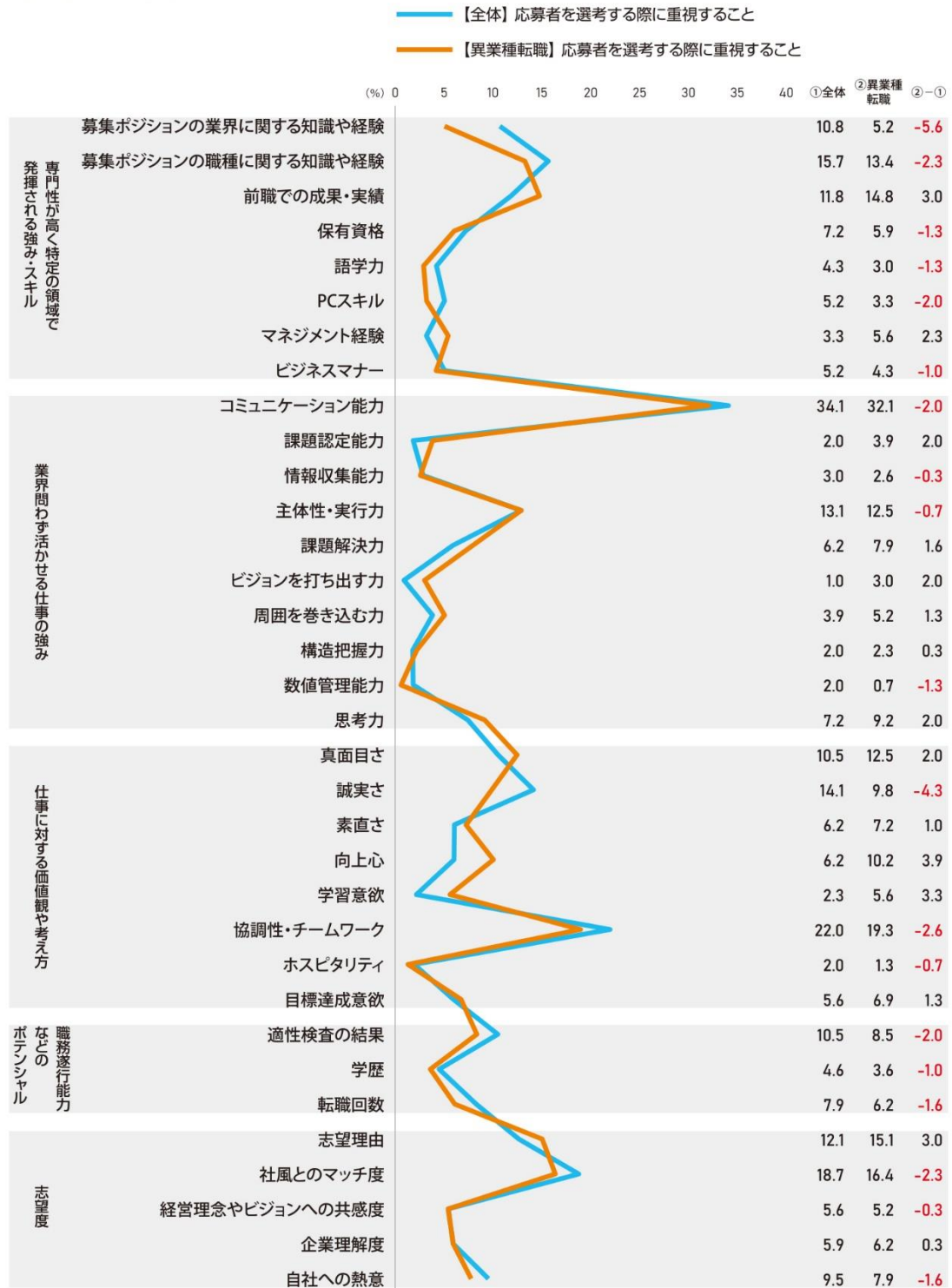
選考時に重視することは、同業種の応募者と異業種の応募者でおおむね同じ傾向。

ただし、「前職での成果・実績」、「向上心」、「学習意欲」、「志望理由」に若干の差異がある

このように異業種転職が増える中、企業は採用面接時にどのような観点で応募者を見ているのでしょうか。採用担当者に、応募者を選考する際に重視することを、「応募者全体」と「異業種からの応募者（異業種転職者）」に分けて確認しました。まず全体として言えることは、両者で大きな傾向の違いはないということです。どの項目もおおむね選択率は近い数値でした。ただしその中でも、「前職での成果・実績」、「向上心」、「学習意欲」、「志望理由」といった項目は、異業種転職者の方が若干高い選択率でした。異業種からの転職は、未経験の分野や仕事に適応してもらう必要があります。そのため、面接の時点で向上心や学習意欲が確かかどうかを重視して確認していると考えられます。

応募者を選考する際に重視すること

(全体と異業種転職の比較)



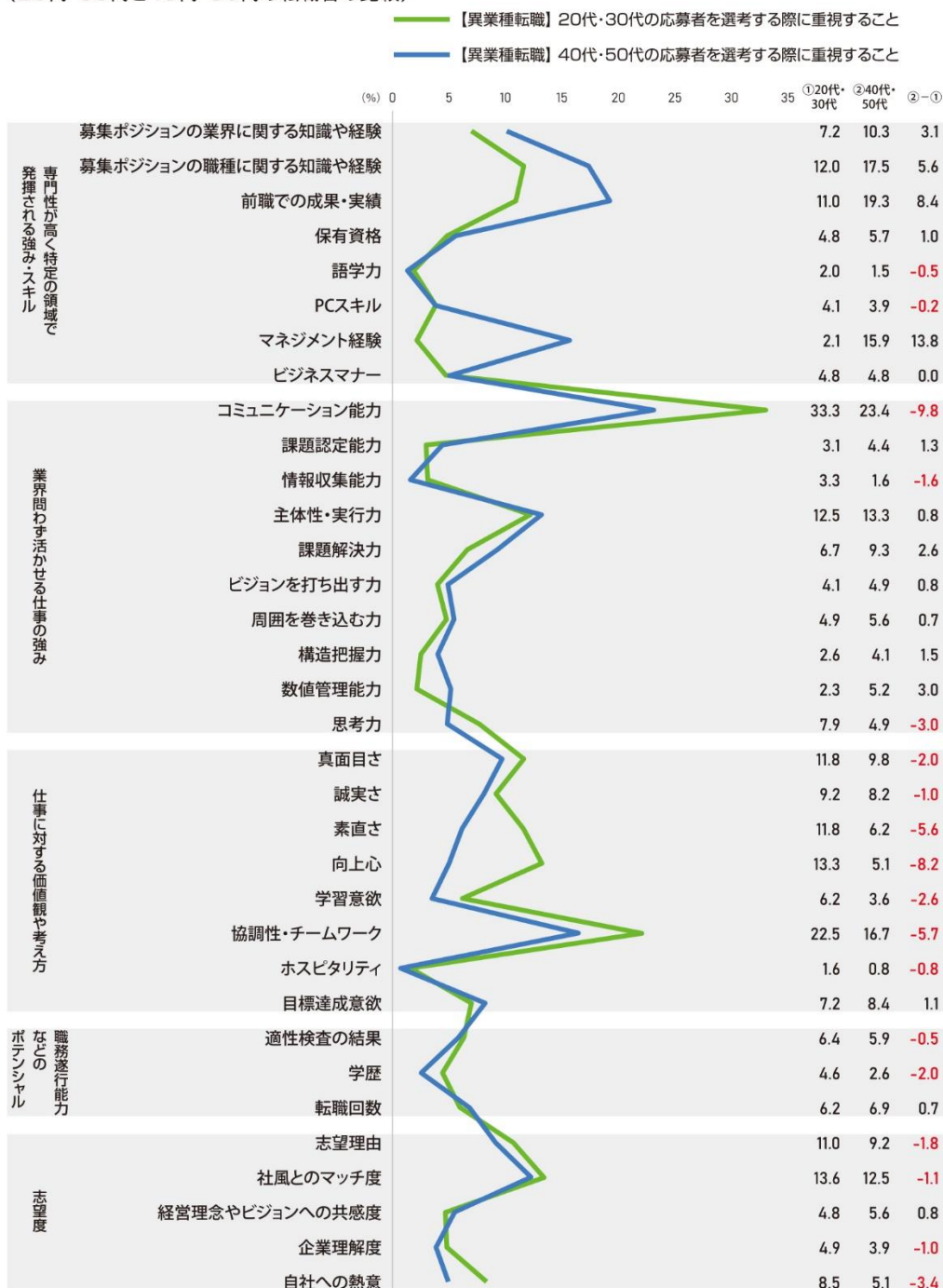
※採用担当者調査の結果を掲載。複数回答、各 n=305

採用担当者が異業種の応募者を選考する際に重視することは、20代・30代と40代・50代で違いがある

次に、異業種転職者を選考する際に重視することを、「20代・30代」と「40代・50代」に分けて見てみましょう。年代別の比較では、両者で異なる傾向が見られました。「専門性が高く特定の領域で発揮される強み・スキル」に関する多くの項目では、「40代・50代」の方が高い選択率でした。特に、「マネジメント経験」は顕著で、「20代・30代」に比べて13.8ptの差がありました。一方で、「仕事に対する価値観や考え方」は、ほとんどの項目で「20代・30代」が「40代・50代」を上回りました。傾向として、就労経験が長い「40代・50代」の異業種転職者には、専門性や知識・スキルがより期待されており、若手層の「20代・30代」には仕事に対するポジティブな考え方やスタンスといった観点が期待されていることがわかりました。

【異業種転職】応募者を選考する際に重視すること

(20代・30代と40代・50代の転職者の比較)

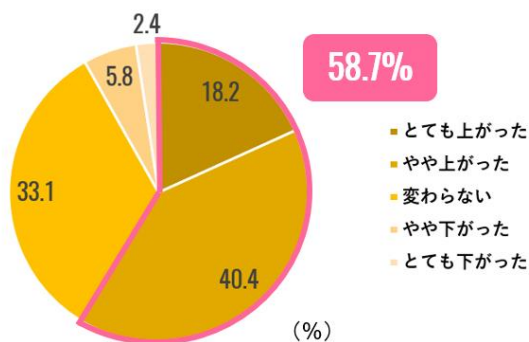


1年以内転職経験者の58.7%が転職後会社への満足度が上がったと回答。異業種転職者の場合は60.4%

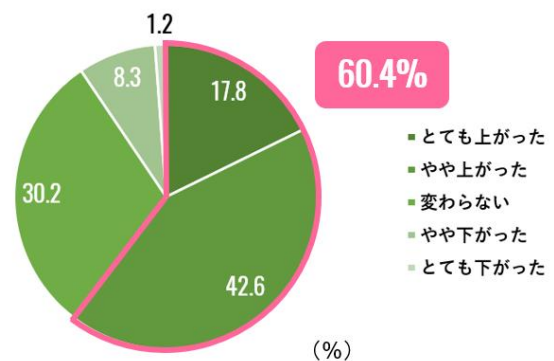
ここからは実際に1年以内に転職を経験した人の調査結果を解説します。転職をしたことで会社への満足度はどのように変化したかを確認しました。直近1年以内の転職経験者全体と、そのうち異業種へ転職した人の結果を掲載しています。

今回の調査結果では、両者ともに約60%の人が転職して会社への満足度が上がった（「とても上がった」と「やや上がった」の合計）と回答しました。また、満足度が下がった（「とても下がった」と「やや下がった」の合計）という人は両者ともに10%未満でした。特に、異業種へ転職した人は、直感的には新しい業種への適応を懸念されていますが、転職後には多くの人の満足度が上がっている状況が見て取れます。

Q.転職をしたことで会社への満足度は上がりましたか
直近1年以内転職経験者（単一回答、n=329）



Q.転職をしたことで会社への満足度は上がりましたか
直近1年以内転職経験者のうち異業種への転職者（単一回答、n=169）

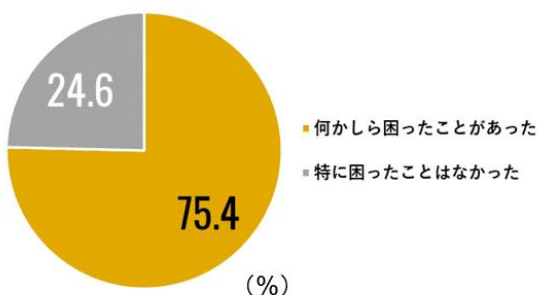


異業種への転職活動時に困ったことで特徴的なものは、「自分のアピールポイントがわからなかった」、「職場環境や文化が自分に適しているかわからなかった」、「経験やスキル・資格が不足していた」など

次に、転職の際に困ったことについて見ていきます。まず、直近1年以内の転職経験者全体の状況を見ると、75.4%の人が何かしら困ったことがあったと回答しています。

具体的には、「自分に合った仕事がわからなかった（26.2%）」、「自分の適性がわからなかった（23.8%）」、「何から始めたらよいかわからなかった（23.0%）」といった項目が選択率上位となっています。

転職の際に困ったことがあったか
直近1年以内転職経験者
(単一回答、n=329)



転職の際に困ったこと
直近1年以内転職経験者で何かしら困ったことがあった人
(複数回答、n=248)



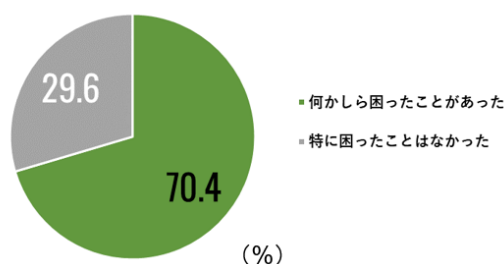
※左図について、「何かしら困ったことがあった」は、「転職の際に困ったこと（複数回答）」で具体的な困ったことを選択した人の割合。右図は選択率上位11項目を掲載

それでは、異業種へ転職した人ではどうでしょうか。70.4%の人が転職する前に何かしら困ったことがあっ

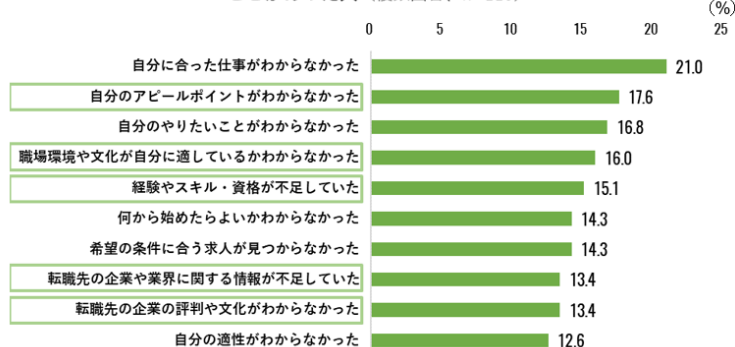
たと回答しており、これは全体の傾向と同様でした。しかし、具体的に困ったことでは選択率上位の項目に違いが見られます。全体と比較すると、「自分のアピールポイントがわからなかった」、「職場環境や文化が自分に適しているかわからなかった」、「経験やスキル・資格が不足していた」といった項目の選択率が高い結果となりました。

これまでとは異なる業種へ挑戦する中で、自身のどのようなスキルや経験を強みとして企業へ伝えていけばよいかわからない、異業種の職場環境や組織文化にフィットできるかわからない。そういった転職活動者の不安が表れているように思われます。

異業種に転職をする前に困ったことがあったか
直近1年以内転職経験者のうち異業種への転職者
(単一回答、n=169)



異業種に転職をする前に困ったこと
直近1年以内転職経験者のうち異業種への転職者で何かしら困った
ことがあった人 (複数回答、n=119)

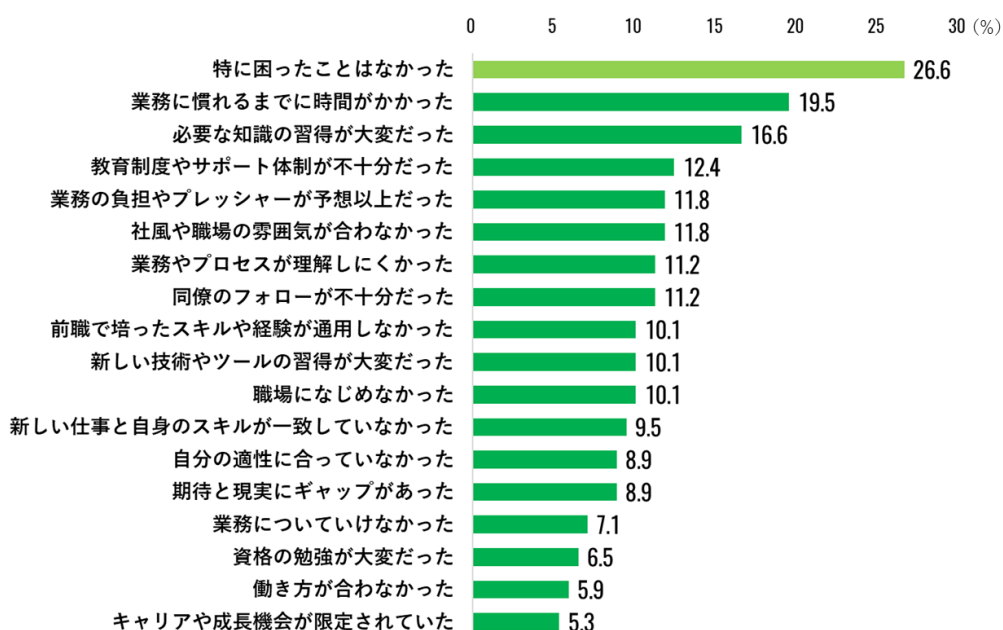


※左図について、「何かしら困ったことがあった」は、「転職の際に困ったこと (複数回答)」で具体的な困ったことを選択した人の割合。右図は選択率上位 10 項目を掲載

異業種転職後に困ったことは、「特に困ったことはなかった」が最多。「業務に慣れるまでに時間がかかった」、「必要な知識の習得が大変だった」が続く

最後に、実際に異業種へ転職した人の入社後に困ったことについて確認しました。まず、26.6%の人は、「特に困ったことはなかった」と回答しました。具体的に困ったこととしては、「業務に慣れるまでに時間がかかった」、「必要な知識の習得が大変だった」が選択率上位でした。

異業種に転職をした後に困ったこと (複数回答、n=169)



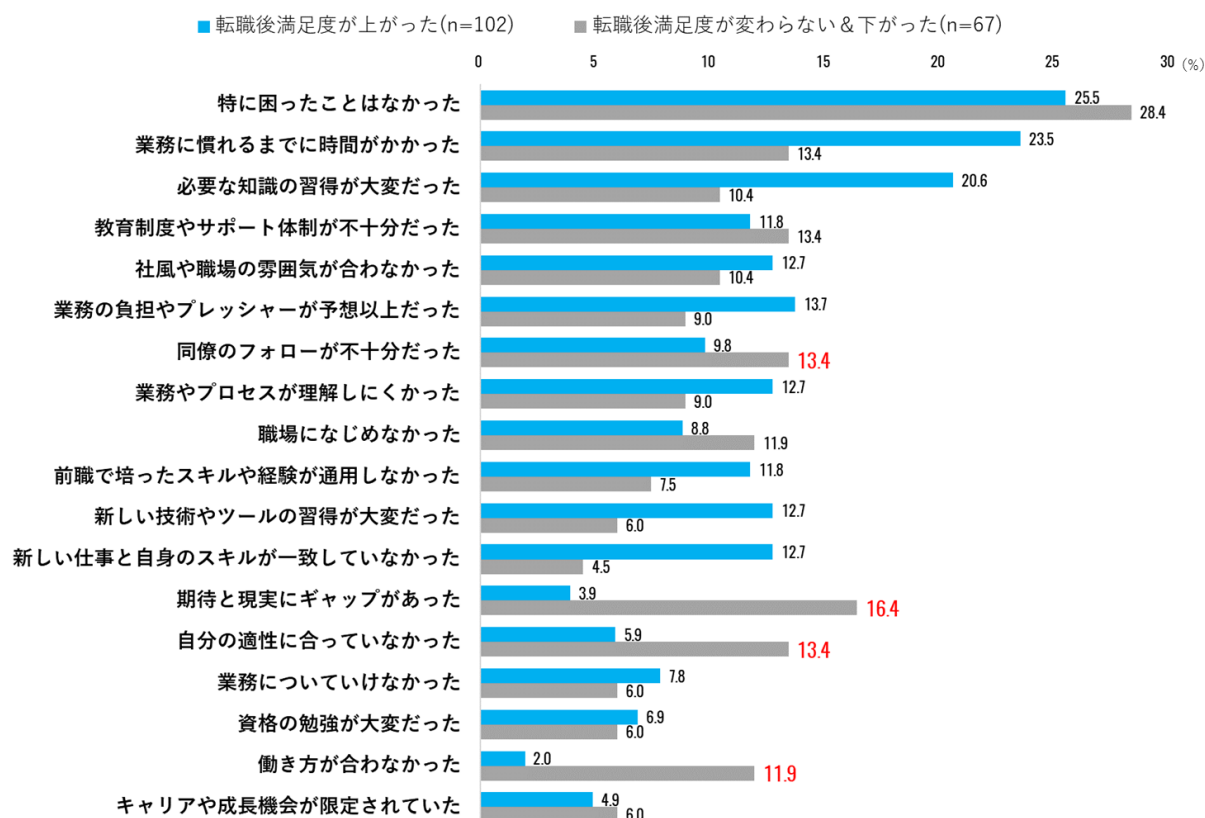
※「特に困ったことはなかった」は排他設問。「その他」を除く

上記設問の回答を、「転職後満足度が上がった人」と「転職後満足度が上がっていない人 (変わらない人、下

がった人)」に分けて確認したものが次の図です。「特に困ったことはなかった」という項目の選択率が高いことは両者とも同様でした。しかし、具体的に困ったことに目を向けると、項目ごとに選択率の差異が大きいものが見えてきました。

「転職後満足度が上がった人」は、「業務に慣れるまでに時間がかかった」、「必要な知識の習得が大変だった」の選択率が特に高く、「転職後満足度が上がっていない人」と比べてギャップが大きいことがわかります。また、「新しい技術やツールの習得が大変だった」、「新しい仕事と自身のスキルが一致していなかった」の項目でも選択率のギャップが大きい状況です。

【会社への満足度別】異業種に転職をした後に困ったこと（複数回答）



※転職後満足度が上がった：「とても上がった」「やや上がった」と回答した人。転職後満足度が変わらない&下がった：「変わらない」「やや下がった」「とても下がった」と回答した人。「特に困ったことはなかった」は排他設問。「その他」を除く

異業種に転職したのですから、業務に慣れるように努力することや必要な知識を習得していくことは、当然求められますが、そういった新しい経験ができることが満足度の向上につながっていると考えられます。あまりに想定を超えるような業務内容であったり、周囲のサポートがないことは問題ですが、業務に慣れること・必要な知識を習得すること等は、異業種転職における健全な苦勞、困難であると言えるでしょう。

一方で、「転職後満足度が上がっていない人」では、「期待と現実にギャップがあった」、「同僚のフォローが不十分だった」、「自分の適性に合っていなかった」、「働き方が合わなかった」といった項目が「転職後満足度が上がった人」と比べて選択率が高い状況です。就職や転職では、どうしても入社して仕事を始めてみないとわからないことが発生します。ただし、期待と現実のギャップや、自分の適性や働き方のミスマッチは、転職活動時の情報収集や転職支援サービスなどを活用することで解消することが可能です。異業種転職となると、どうしてもその会社のビジネスモデルや仕事やスキルの内容に目がいきがちですが、そもそも自分が転職やキャリアチェンジに何を求めるのか、土台となる働き方はどうあると望ましいのかを検討することが大切でしょう。

見逃してはいけないのは、「同僚のフォローが不十分だった」、あるいは、「職場になじめなかった」という項

目ではないでしょうか。「転職後に満足度が上がっていない人」は、職場における周囲からのサポートが実感できていない状況です。多くの方は新しい環境へ踏み出す際、期待とともに「不安」を抱えています。異業種への転職ともなればなおさらでしょう。新しい環境でいち早くパフォーマンスを発揮するためには、その人自身の努力はもちろんのこと、周囲の支援や協力が不可欠であること。本調査の結果は、企業や職場が一緒になって転職者を支援することの重要性を示唆しています。

《グラフを見る際の注意点》

%を表示する際に小数点以下第2位で四捨五入しているため、合計値と計算値が一致しない場合があります。

調査概要

① 採用担当の本音調査

調査方法：インターネット調査

調査対象：全国の従業員50人以上の企業で働く正社員（20歳～69歳）で、中途採用業務に関与する人
有効回答数：305人

調査実施期間：2024年1月31日（水）～2024年2月5日（月）

調査機関：インターネットリサーチ会社

② 正社員の就業・転職意向実態調査

調査方法：インターネット調査

調査対象：全国の企業で働く正社員（20歳～59歳）

有効回答数：1,339人 ※本リリースでは全体のうち、1年以内転職経験者である329人を集計対象とした

調査実施期間：2024年1月30日（火）～2024年2月2日（金）

調査機関：インターネットリサーチ会社

『リクルートエージェント』では、転職や仕事に関する調査・分析結果をお届けするサイト『転職データライブラリ』を掲載しています。今回の調査に関する記事も掲載しておりますので、以下からご覧ください。

『転職データライブラリ』

年収事情や転職活動の話、副業や残業時間など、気になる仕事関連の情報をまとめています。

▼詳しくはこちら

<https://www.r-agent.com/data/>

▼「異業種転職」に関する詳しい記事はこちら

<https://www.r-agent.com/data/survey/defferent/>

『リクルートエージェント』とは

1977年に創業した、人材紹介事業です。「一人ひとりの可能性に寄り添い、選択を支える」ことをミッションとし、一人ひとり異なる迷いや不安、希望に寄り添い、キャリアや仕事に悩む方が、より良い選択ができるよう支援することを大切にしています。半世紀近くにわたり蓄積された転職支援のノウハウを基に、求職者の皆さまからこれまでのキャリアやご希望の条件を伺った「キャリアアドバイザー」が求人のご紹介や応

募書類のアドバイス、面接サポートなどを行っています。企業からのキャリア採用の依頼を受けた「リクルーティングアドバイザー」が求人情報を作成し、採用まで伴走します。北海道から九州まで全国 20 カ所（2023 年 4 月時点）に拠点を設け、全国でサービスを展開しています。



リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、マッチング&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここがない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>

本件に関する

お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>